年間定期検査の意義

年に１回の定期検査を受けましょう！

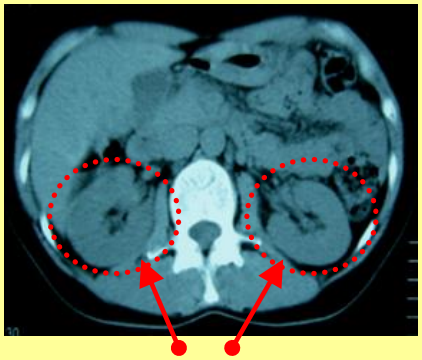
【 副院長　長屋　敬 】

透析を長期に継続することで問題となるのは、動脈硬化や二次性副甲状腺機能亢進症などによって起こる血管の石灰化で、血管の狭窄や閉塞の原因となります。そして、さらに脳梗塞や心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症（下肢の血流低下や足趾の壊死など）を発症してきます。

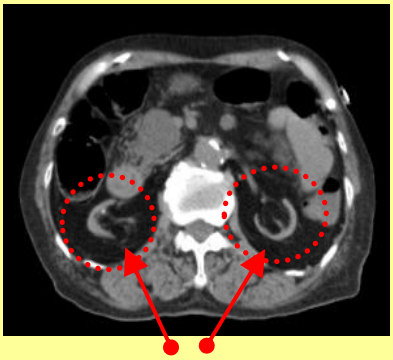
透析の合併症を早期に発見するために、十全クリニックでは、すべての透析患者様に、毎年 1 回の定期検査を行うように案内をしています。それぞれの検査の意義について、説明をしますので、よく理解の上、年間定期検査は、必ず受けるようにして下さい。

①心エコー検査：心臓の機能を評価します。心筋の虚血に由来する心臓の壁の動きの状態、心臓弁の石灰化、それによる弁逆流などを調べます。透析中など、予想外に血圧が下がる場合には、必要に応じて検査を再検します。

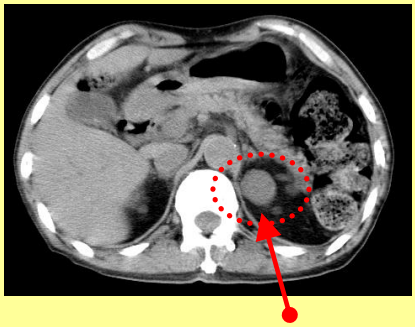
②腹部 CT 検査：透析に入ると機能しなくなった腎臓は萎縮し、石灰沈着をきたします。そこに、腎癌が発生してきます。健常者と比較し透析患者の腎癌発生率は、約 10 倍高いとされており、年 1 回の CT 検査を継続して見ていく必要があります。



正常の腎臓



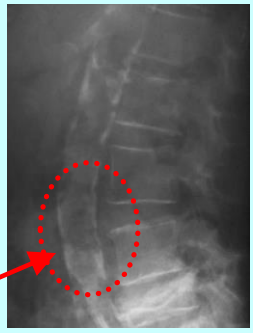
萎縮した腎臓



腎癌

③全身骨レントゲン撮影検査：二次性副甲状腺機能亢進症による骨の脱灰や異所性石灰化、血管の石灰化と、アミロイド沈着による骨嚢胞の有無をなどを調べます。

石灰化した大動脈



異所性石灰化

④骨密度検査：年齢により骨密度は減少します。しかし、慢性腎不全自体が、骨粗鬆症をさらに進行させます。それを判定するためにも骨密度の測定が必要です。

⑤ＣＡＶＩ検査：血管の硬さ（血管年齢）や閉塞の程度を測定します。